

## 阿蘇山ハイク

日程=6月4日(火)~10日(月)

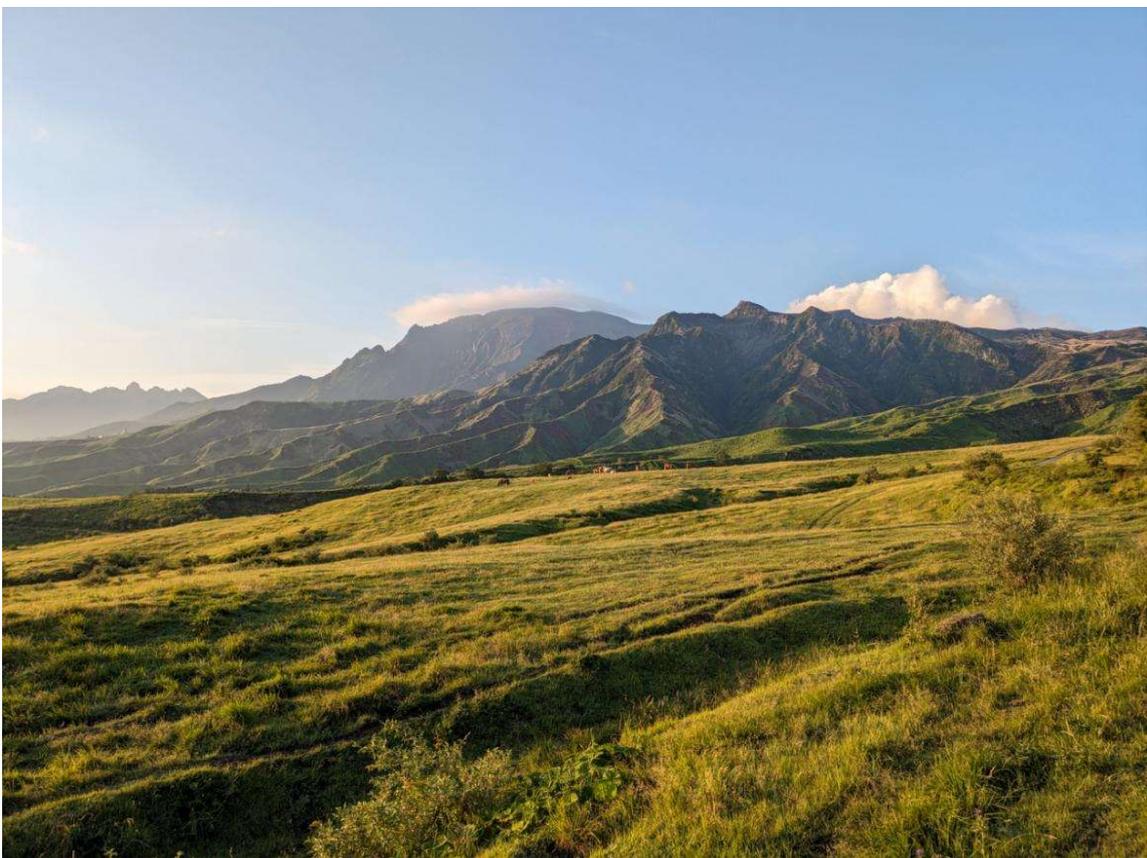
山行者=M上

前日に長崎の友人と久々の再会で九州の旅が始まりました。今回は友人と会うのが第一の目的でしたが旅もしたくなり約60年ぶりになるのですが霧島連山に登ろうと計画しましたが、直前で天候が悪くなり阿蘇山に変更することにしました。阿蘇も約60年ぶりで噴火口の淵に立って眺めた風景に感激した思い出だけがありました。しかし今回は噴火レベル2なので噴火口1キロ以内は立ち入り禁止で阿蘇の最高峰高岳に登ることにしました。

4日：長崎を朝出発すると新幹線のおかげでお昼前には熊本駅に到着です。駅そばのビルにあるアウトドアショップでガス缶を購入しお昼を食べてから豊肥本線に乗り換え阿蘇駅に向かいました。駅の傍にある道の駅で3日分の食料を買い込みバスで坊中キャンプ場に向かいました。火曜日とあってキャンプ場は2組だけで手入れのされた草っ原にテントを張りまだ明るいのでキャンプ場付近を散策。少し登るとグレーの噴煙を上げた阿蘇の山々が。まるで絵葉書のような風景です。



しばらく山上ターミナルに行く道路を登ると牧場が広がり牛や馬が草を食べています。ぶらぶら戻って夕暮れになってから私も食事を済ませレンガを敷けば焚火もOKなので小さな焚火を楽しみました。ちなみにレンガは管理棟においてあります。



5日：本日も良い天気のように高岳に向かうことにし早朝 5:20 に出発しました。阿蘇は噴火口近くまでバスで登れますが麓から歩いてみることにしました。しばらく道路を歩き高度 800m あたりにある牧場ゲートから入ります。バックには阿蘇の外輪山を挟んで九重山が半分シルエットの様に見えていました。

晶文社の地図にはこの牧場コースに入るには許可を取れと書いてありましたのでキャンプ場の管理人さんに聞いたところゲートをちゃんと閉めれば大丈夫との事。しかし山頂近くの古坊中までキャンプ場から結構距離があり高度差も 500m ほどあります。コースタイムでは 3 時間くらいになっていましたが早朝の冷えた空気の中を歩くのは気持ちの良いもので昨日のグレーの噴煙も今日は白い水蒸気の噴煙に代わっていました。

牛や馬の朝食時間ですが高度を上げると鹿の群れや狐が横切ったり道に子狐が寝ていたりとなかなか楽しい道です。毎年おこなわれる山焼きで春になると新しい草が生え牛や馬や鹿の食料となり彼らが落とすものが飼料となり荒れ果てた火山灰の地面は緑に代わって行くことを繰り返して牧場が出来上がっているのでしょうか。キャンプ場の管理人さんが言っていましたがこのあたり一帯は農薬は使っていないそうで虫も多くそれを餌に鳥がたくさんいて一日中周りには鳥の音がしていました。

途中寄り道しながら登り古坊中に着いたのは 7:00 を過ぎていましたが予想より早く着いたようです。それから少し道路を歩くと山上ターミナルに着きました。レベル 1 以下であればここからシャトルバスで噴火口のそばまでまで行けるようです。

まだ車で来た数人の登山者とターミナルで働いている人がいるだけでした。このあたりの高度は 1100m 位で景色は緑からグレーの世界に代わっていました。



歩きだしますが高岳に登るには現在噴火口 1 キロ以内は入れないため南にある皿山迂回コースと砂千里コースから登ります。まずは低木帯の中を進み斜面を登ると皿山に続く尾根のコルに到着。ここから火山らしい地帯に入りました。コルから急な斜面を下ると月面のような砂千里が広がります。

砂千里の淵をしばらく歩いて中岳に向かいました。中岳山頂は噴火している火口の一番高い所にあたりますが岩のゴロゴロした急斜面を登ります。遠目から見ると何処に道があるかわかりませんが近づくと黄色いペンキで印が、でもとても歩きにくい。印を追ってジグザグの急斜面の道をかなり登ってやっと中岳の稜線に出ました。

少し休んで行動食を食べていると眼下に平野が広がり荒々しい山肌とは別ののどかな田園風景が広がっています。阿蘇のカルデラの大きさを感ずるところで日差しは強いのですが空気はまだ冷たく風が心地よい時間が過ぎてゆきました。

休みを終えて尾根をしばらく上ると中岳 1506m に到着。中岳の西に先に進み道は進入禁止になっていますが巨大な噴火口が目の前に広がりました。これまでいろいろな火山を見たり登ったりしたので 60 年前の時受けた感激の時の様ではありませんが日本一の火山の巨大な噴火口ですから見ごたえ有りです。



山頂にいたご夫婦は北東側にある仙酔尾根から登ってきたそうですが早朝巨大な白い噴煙が今は小さくなっているのはどうしてなのかと聞かれてしまい時間で噴火の量が変わるのでしょいかね〜？と応えてしまいました。下山後下のゲートにいた係の人に聞くと早朝は空気が冷えているので白く見えるが気温が上がると見えなくなってくることもあるのだと言っていました。でも噴出している量は変わらない様でグレーの噴煙と白い噴煙は別の火口から出ているようです。

中岳から東に尾根を登ると最高峰の高岳 1592m に到着。時間は 10 : 18 でした。そこか

ら

東に東峰がありミヤマキリシマが咲いていたので足を運びます。このあたりではミヤマキリシマの群落が残るのはここだけの様でした。今年は咲いたのが早かったようです。

下山は群落の中を下って避難小屋のあるコースで高岳と中岳の間に登り砂千里のコースで下山しました。山上ターミナルはお昼とあって人はいましたが噴火口行きのシャトルバスが運休のため少ないようでした。



しばらくして阿蘇駅に下るバスに乗車してキャンプ場に戻ります。少し走って草千里に着くと一面の緑が広がり観光客がかなり増えました。草千里の中で乗馬を楽しんでいる人も。ほとんどが中国系の人々、ヨーロッパ系の人が少ないのは不思議でした。

キャンプ場に戻り今日オートバイで来た人と立ち話。その後昨日と同じように食事を作り小さな焚火を楽しみました。明日は天候が良ければ阿蘇山系の東の端の根子岳でも行こうかと考えていました。根子岳は阿蘇山系が南の外輪山から見ると涅槃仏のように見えて顔に当たるところです。でも翌日は天候は降るようでした。

6日:朝起きると空はグレーでした。相変わらず鳥の声は大きくさえずりではありません。山に登れない天候でもありませんでしたが山頂は雲の中で根子岳まではアプローチも手間がかかるのでやめて熊本に戻ることになりました。夕刻前熊本駅に着きホテルを予約して夕食の時間になりましたので市電に乗って繁華街に食べに行くことに。熊本は久々に地震の後でとところどころ変わってはいましたが繁華街はにぎわっていました。通常なら熊本名物の馬刺しとビールなのですが牧場でたくさん馬たちを見たせいかどうかどうも食べる気がしませ

ん。そこで中華料理店に入りやはり名物の天平燕(タイピーエン)を食べることに。簡単に言うと塩味の野菜のたくさん入った麺なのですが、麺が蕎麦ではなく春雨なのです。要は燕の巣と春雨が似ているのでこの名前なのでしょう？熊本の名物ラーメンが豚骨のどちらかと言えばしつこいのに比べこちらはあっさり上品な味で私は初めて食べました。

7日：今日は夕刻熊本空港でA原さんM浦さんと合流する日です。私が九州旅行を計画しているときA原さんが九重山のミヤマキリシマを見に行くプランを提案されたので混ぜてもらった事にしたのです。九重山も久々でミヤマキリシマが一番咲いている頃です。

夕刻まで時間があつたので佐賀の吉野ヶ里遺跡を見学に行きました。新幹線のおかげで熊本駅から2時間もかからず遺跡に到着できます。発掘が始まったころ一度見学をしたのですがそれから20数年たってどのようになっているか興味があつたからですがすっかり公園の様になり見学の小学生や中学生でにぎわっていました。



8日～9日：二人と合流して九重山にレンタカーで向かい2つのピークに登り天候が崩れたため坊ガツルのキャンプをやめて法華院温泉山荘に自炊泊。後で友人に聞いたところ温泉と雰囲気は良いが食事はあまりと言う評価でしたから自炊が正解でした。9日は九重の北西あたりになる温泉民宿に。気持ちはすっかり旅行者になっていました。

10日：いろいろ案が出ましたが天候も良くないし、でも夕刻の飛行機まで時間はありますから阿蘇に行ってから帰ると言うことになりました。草千里まで車で登って雨は上がったのでM浦さんお勧めの杵島岳と烏帽子岳に。高岳方面と違い一面緑の山です。丸い

お椀を伏せた様な山が連なりますが歩くと丸い噴火口があつてなかなか面白い景色です。ここも山焼きの対象らしくところどころ焦げた低木が残っています。天候も回復傾向になり風景を楽しみ二人が歩いているところをスマホで撮りました。



杵島岳を登り噴火口を回って草千里に一旦下り烏帽子岳に登りました。そのころにはすっかり天候も良くなり草千里は人が一杯で観光地になっていました。

阿蘇山は阿蘇五岳と言って主なピークが 5 つあります。最初に登った中岳、高岳、それに最終日登った杵島岳、烏帽子岳、それから東の根子岳を指しますが今回の旅で阿蘇は 4 つのピークを楽しむことが出来ました。7 日夜から合流した M 浦さんには終始車の運転をしていただき宿の予約などしてくれた A 原さんのおかげで広く九州の自然を楽しめたのは私にとってありがたい山旅でした。

M 上 記